

八雲町立山越小学校
学校だより
まごころ

至誠

学校教育目標

自ら考え 行動する子

第5号 令和6年7月23日発行



「山越小学校のまわりに目を向けると…」

校長 長谷川 美栄子

山越小学校での校長先生の朝の日課は、8時45分に学校を出て坂を下り、ヤクルトの駐車場で子供たちと待ち合わせて一緒に登校することです。約200mの短い距離の往復ですが、1年を通していろいろな小さな発見があります。

春には、ウグイスの声が聞こえ、道路わきではフクジュソウの黄色い花、壁画の下ではニリンソウの群生が白い花を咲かせます。また、校門横には、赤紫のヒメオドリコソウや青いオオイヌノフグリも。セイヨウタンポポが一斉に咲き、綿帽子になる頃には、スズメが、児童玄関横の換気口や外物置の軒先に巣を作り、頻繁にえさを運ぶ姿が見られるようになります。親鳥が巣に入っていくと、ハヤハヤというえさをせがむひなの鳴き声が聞こえますが、その後すぐ親鳥は飛び去り、またしばらくするとえさをもって帰ってきます。さらに2週間すると、小さなスズメが、校庭の低木や児童玄関前をチョンチョンと行き交い、巣立ったことがわかります。7月の初旬のある日、体育館側のアスファルトに上で、^{かえ}孵って間もない何かのひなが死んでいたことがありました。「スズメのひなは6月に巣立ったばかりなので、児童玄関横の換気口の巣は空のはず……。ツバメか何かのひなののだろうか?」と思っていましたが、数日後に児童玄関横の換気口から頻繁に出入りするスズメの姿とひなのハヤハヤという声が! インターネットで調べたところ、スズメの繁殖期は春から夏にかけてで、年に1~3回繁殖するそうです。ということは、先日死んでいたひなもスズメだった可能性が高いという結論になりました。(ちなみに今は、2回目に巣立ったスズメの子たちが学校の周りを飛び交い、飛び練習をしています。)ウグイスやスズメの他にも、山越小学校のまわりにはたくさん野鳥がいます。子供たちを迎えに学校の坂を下りる時は、いろいろな鳥の声が聞こえますが、子供たちと坂を上る時には、聞こえなくなっていることもあります。また、季節によって聞こえる声や見かける鳥も違います。春、グラウンドで普段見かけない鳥が群れでえさをついばんでいたことがありました。調べてみたところ、春になると北に移動するツグミという渡り鳥でした。

子供達と歩いていてよく目にするのは、ミミズやナメクジ、それと黒とオレンジのもじゃもじゃ毛の毛虫です。ミミズやナメクジは雨上がりの朝に大量に発生し、子供たちは気持ち悪がって避けて歩きます。大きなカタツムリを見つけたこともあります。

身近な場所でも、よく観察するといろいろな発見があります。明日から夏休みです。「これ何?」「なぜだろう?」と思ったことは、事典や図鑑、クロムブック等を活用して調べてみてください。「へ~、そうなんだ」「なるほど」といった新しい発見や小さな驚き、感動と出会うことができるでしょう。(上記の生物も、クロムブックで簡単に検索することができます。ぜひ調べてみてね!)

8月行事予定

13 火	学校閉庁日	23 金	午前授業(給食なし)
14 水	学校閉庁日		長期休業明け集会
15 木	学校閉庁日	27 火	スイートコーン収穫体験
16 金	学校閉庁日	29 木	移動図書
22 木	meetで朝の会 ICT家庭学習	30 金	水泳学習

これ やりたい!! (1・2年生)

7月に入り、自分からこれやりたい!と進んで学習する姿がたくさん見られます。

子供「先生!漢字のプリントをやりたいです!」

担任「どうして?」

子供「テストで連続100点を取りたいから。」

子供「先生!このプリントたくさんやったから、もう覚えましたが!違うプリントをください!」

担任「どうして?」

子供「もっと覚えたいから。」と、自分から、やりたい!という気持ちが高くなっています。2人とも「テストで良い点数を取りたい」や「もっと覚えたい」と目標をもって、その目標を達成するために、何が出来るかを考えているところが素晴らしいです。目標があれば、前向きに取り組むことができます。子供が目標をもてるように、やる気スイッチを押したり、好奇心をくすぐるような声かけをしたりして、児童が自分から学んでいけるようにしていきたいと思います。

明日から夏休みが始まります。30日間の長い休みに入りますが、休み中も「これやりたい!」と色々なことに興味をもって取り組んでほしいと思います。子供から「これやりたい!」「これやってみたい!」という声があがったら、ぜひ背中を押してあげてください。

どうして勉強するの? (3・6年生)

11日(木)の参観日で道徳の授業を行いました。テーマは「どうして勉強するの?」です。

子供たちからは、「社会に出て困らないため」「苦手なことを克服するため」「次の学年で習ったことを使うから」などの意見があり、子供たちなりに勉強する理由を考えていることがわかりました。一方、保護者からは、「大人も勉強は苦手だよ」「しなくて後悔した勉強もあるよ」といった意見を頂きました。その中で子供たちが驚いていた回答は、「『勉強しなさい』ってあんまり言いたくない」という言葉でした。今回の授業では、「では、なぜそう言うのだろうか?」という新たな疑問を残して終わりました。この後、ぜひご家庭で子供と話し合ってもらいたいと思います。大人から子供へ、自身の経験や考えを話す一つのきっかけとなれば幸いです。

さて、学校の図書室や図書館には、答えのヒントになりそうな本がいくつかあります。夏休み中、対話したり本を読んだりして、答えのない問いを考えてみてはいかがでしょうか。



理科「かげはどちらに?」(あおぞら学級)

「かげと太陽」の学習で「かげ」について学習を深めました。最初の学習では、「かげふみ鬼ごっこ」をしたり、かげで様々な形のかげを作ったりして遊びました。その時に、「かげって、太陽の反対側に見える」ということを発見! 次の時間には、かげと太陽の位置を観察しました。子供たちは、「時間がたつと、かげの方向が変わるかどうか」という問いかけに、「変わる」と予想を立てました。午前中、グラウンドに三角コーンを置いて、かげの形の通りに印をつけて午後まで時間をおきました。午後になって様子を見にいくと、「あっ、動いてる!」というさらなる発見! 光板めがねで太陽の位置を観察すると、「前と違うところにいる!」ということもわかりました。

子供たちは、遊びながらもしっかり学んでいます。



松前神楽を堪能~山越諏訪神社例大祭を終えて~

山越諏訪神社の例大祭が17日~19日にかけて3日間にわたり開催されました。最終日となった19日(金)は、神社において「松前神楽」が披露されました。「松前神楽」は、松前町を含む北海道日本海沿岸地域、道南地域に残る、国指定の重要無形民俗文化財です。

昨年に引き続き、今年も6年生の小島容雄君・佐藤あらたさん・湊胡桃さんの3人が参加しました。3人は、小島宮司の指導のもと、今日まで練習を積み重ねてきました。

また、この日は特別授業と題して全校児童で松前神楽の見学会を行いました。今後も、地域の伝統芸能や地域の行事、習わしについて学ぶ中で、周囲の人への感謝の気持ちや郷土愛を育てていきたいです。

前日の神輿渡御でも各場所で神楽を上演し、その姿や所作は大変凛々しく、また美しくもあり、参観した多くの方々から賞賛の言葉をいただきました。

